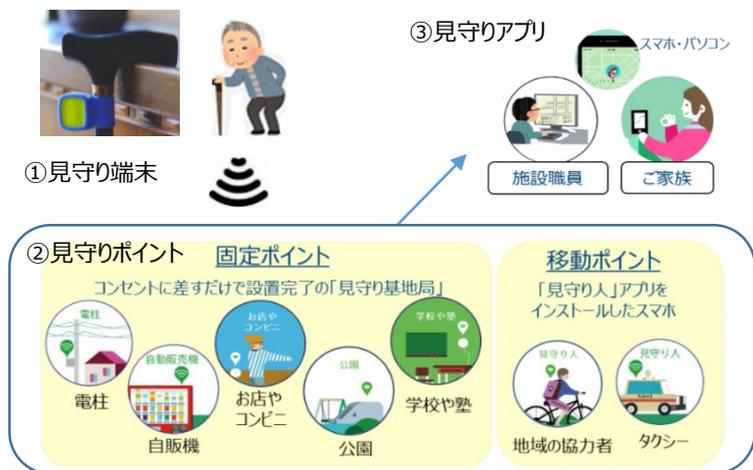


ビーコン技術を活用した 認知症の方の外出見守り・支援事業

<共同事業者> 九州電力送配電株式会社



事業概要

背景・目的

認知症の人が外出する際には、目的地にたどりつけず途中で迷ったり、所在がわからなくなってしまうことがあり、本人も、家族など介護者等も大変不安な状況になることがある

このような状況に対応するため、認知症の人が行方不明になった際に、居場所を捜索するGPSやbluetoothなどの機器を使った見守りサービス等新たな発想や手法による効果的な取組み・仕組みを、取り入れていく必要がある

そこで、これらの課題解決につながる提案を募集したところ、九州電力送配電株式会社より、ビーコン技術を活用したシステムを用いた事業の提案があり、共同実施した

事業内容

認知症により道に迷ったり、自宅がどこか分からなくなったりする恐れがある方に対して、ビーコン端末（見守り端末）を携帯してもらい、見守りポイントで検知した見守り対象者の位置情報を、施設の職員や家族にスマートフォンアプリを通じて提供

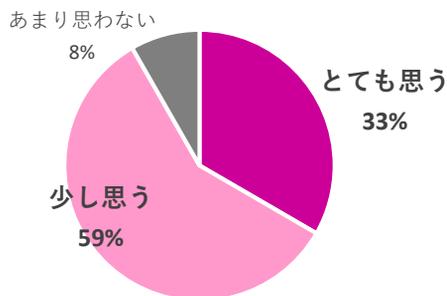
*市では、2019年度より同事業者と協働で開始した「IoTを活用した子ども見守り事業」により、ビーコンの電波を受信できる基地局などを市内全域に構築している

事業期間

2020年10月1日～2021年9月30日

結果

見守りサービスを利用して安心感が生まれたか？



約92%の人が見守りサービスを利用することで、安心感が生まれたと回答した

参加者意見・事例など

- ✓ 24人の認知症の方が参加
- ✓ 端末が小さく、充電不要で、認知症の方の持ち運びが、便利であった
- ✓ 施設から自宅に帰る方向が間違っていたため、アプリで捜すことができ、役に立った
- ✓ 自転車で出かけた際に遠方に移動していたが、アプリの位置情報から見つけることができた

今後の展開

幅広い普及に向け、事業成果等をPRするとともに、初期費用の補助などについて検討する